

みなさん、こんにちは！「教科書を考える呉の会～未来への架け橋」です。今日は、会の活動として行ってきた「教科書の読み比べ」を紹介します。

## 「男女平等」を読み比べてみよう～育鵬社とN社版～ (12/4)

- 育鵬社の教科書には、「(男女共同参画社会を進める) 条例は、『女性の社会進出を強調するあまり、とにかく働くべきだという考えをおしつけ、子育てなどで貢献している専業主婦の役割を軽視している』という反対の声もあがっています。」とか「育児・家事に専念する専業主婦という形も、家族の協力のひとつのあり方です」(P54～55)と書いてあります。みなさんはどう思いますか？
- 「そうだな～専業主婦もありかな・・・」「でも、これで学んだ中学生が『男は外で仕事、女は家事と育児』という男女の役割意識に疑問をもつかな?」「あっそうか。未来の課題を考えるのが社会科なのか・・・」
- そういうやり取りの末にある宗教者の方が「(専業主婦に) 感謝という言葉で(男女の) 差別を覆い隠している。」と一言。「なるほど、みんな考え合うと意味が分かってくるのね。」

## 「自衛隊」を読み比べてみよう～育鵬社とN社～ (1/7)

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●育鵬社版は主語が「連合軍」「マッカーサー」と「政府」で国民がない。<br/>例「連合軍は日本に非武装化を強く求め・・・」<br/>例「マッカーサーは、・・・警察予備隊の設置を命じました。」</li> <li>●資料は「各国の憲法に記載された国防の義務」と国民の「自衛隊への印象」。</li> <li>●脚注で「集団的自衛権を『行使することができる』と解釈を変えるべきだ」という自民党、しかもその中でも超タカ派の意見を載せている。これでは教科書というよりも改憲のための広報紙です・</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○N社の主語は「わが国」「日本国憲法」で、「政府は」とあっても「これに対し」という意見が記述されている。<br/>例「わが国は、…侵略し、他の国々に大きな被害を」<br/>例「日本国憲法は、二度と戦争を起こさないという固い決意のもとに、・・・平和主義を取り入れました。」</li> <li>○これに対しN社は「外国憲法の戦争放棄条項」と「戦争放棄に関する意識調査」。</li> <li>○「原爆ドーム」と「自衛隊の演習」の写真を並べ、一面的なとらえ方でなく、多面的な見方を育てようとしている。そして、日本国憲法の視点で物事を判断するようにしている。</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

こんな教科書の読み比べで、①2つの教科書のちがいをだし合い、②育鵬社のねらいを考えることによって、③これは子どもたちに渡してはならない教科書だということをもますます実感しています。そして、④だれかの意見の受け売りではなく、自分で見つけたことなので、他のだれかに伝えていこうと思うことができ、広がりを生むことができると思います。一人一人が

つかんだ真実こそが運動の原動力です。なによりも、こんなにひどい教科書を採択した呉市教委の偏りを検証しています。

育鵬社の教科書でどんな子が育つか①



# 3つの視点で高得点の育鵬社版教科書

—7月22日採択会議でのK指導主事報告—

昨年（2011年）の7月22日、採択のための教育委員会会議で選定委員のK指導主事は、歴史教科書調査の視点②「我が国の歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫」、視点⑧「既習事項と関連した内容構成」、視点⑩「本文以外の記述の工夫」で「育鵬社が特に優れている」とし、点数化すると、「東書」35点、「教出」30点、「清水」34点、「帝国」35点、「日文」35点、「自由社」28点、「育鵬社」40点と報告しました。

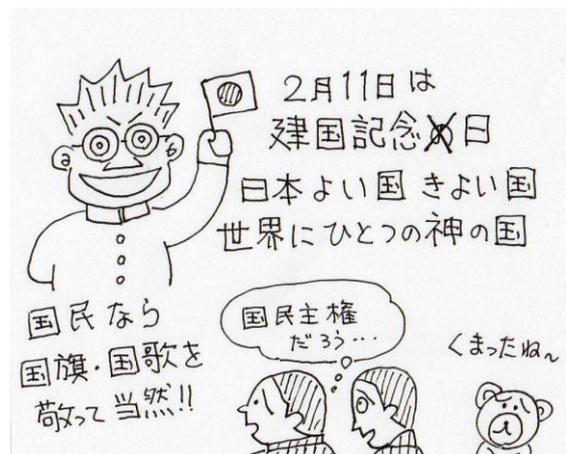
また、公民教科書についても、視点②「自国を愛することが大切であることを自覚させるための工夫」、視点⑩「本文以外の記述の工夫」、視点⑫「調べたことや考えたことを適切に表現するための工夫」で「東書」36点、「日文」37点に対し、「育鵬社」39点と報告し、それに対し、教育委員からの何の発言もないまま、育鵬社の教科書の採択を議決しました。このウラにはどんでもないカラクリがあったのです。

## 2年前には8社中5位(歴史)、7社中6位(公民)の育鵬社がなぜ1位に！？そのカラクリは…？

前回（平成21年）の採択の「調査・研究の観点」にあったのは、「・・・一面的な見解だけを取り上げている部分はないか（正確性）」とか「その学年の生徒の心身の発達段階に適切しているか（内容の選択）」、または「学習内容を有効に進めるように適切に配慮されているか（組織・配列・分量）」というものでした。そして、その年の教科書採択では育鵬社の歴史教科書は8社中5位、公民教科書は7社中6位でした。

ところが今回は、「視点・方法」が大幅に変えられました。たとえば、歴史教科書でいえば視点②「我が国の歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫」を掲げ、「文化遺産、神話・伝承、ことば（日本語）等に関する事例数と内容」「日本の伝統や文化の価値に係る本文の記述」という調査方法が設定されました。また、視点⑧「既習事項と関連した内容構成」では「歴史上の人物等に関するコラム等の数と内容」「・・・歴史上の人物の数」という調査方法が設定され、視点⑩「本文以外の記述の工夫」で「脚注、側注の扱い」という調査の方法を設定しました。そして、これらの「視点・方法」がいずれも育鵬社の特徴を最大限に評価するものだったのです。すなわち、「神話・伝承」を見開き2ページのコラムであつかい、「日本人の宗教観」というページで「日本人の伝統と文化」をあつかい、「人物等に関するコラム」の数が103で他の教科書（39～50）よりも多いこと、脚注・側注の掲載数が630で、これも他の教科書（300～500）よりも多いことで◎（4点）をつけています。これだけで4×3で12点も「下駄をはかせた」ことになります。こうした結果、育鵬社が40点でトップになったというわけです。まさに日本相撲協会を揺るがした八百長問題！それに匹敵するような採択だったのです。

育鵬社の教科書でどんな子が育つか②



公民教科書も同じで、「自国を愛することが大切であることを自覚させる・・・」という視点で「国旗、国歌、主権、領土等に関する記載の内容」と

いう調査方法を設定し、「領土問題」で「歴史的にも国際法的にも日本固有の領土です」という表記、「拉致問題」ではコラムで「日本政府が拉致被害者として認定している17人」という説明していること、また巻頭で「拉致被害者家族会の写真を掲載している」ことで育鵬社公民教科書に最高点をつけ、39点でトップにさせたのです。

今回の「視点・方法」には、何が何でも育鵬社版を採択しようというたくらみが透けて見えます。そして、そのなかで「子どもにとってわかりやすく、考えたくなるような教科書」という従来からの視点が葬り去られたのです。では、なぜ「視点・方法」を変えてまで育鵬社に肩入れしたのでしょうか？

# 教科書採択に向けてかつてない教育介入

## —自民党が全国に指示した通達—

4年に1回行われる新教科書の採択(今回は2年前でしたが、学習指導要領の改訂に伴って2年前倒しになりました)。きわだっていたのは自民党の執念ともいえるほどの教育介入です。自民党は組織運動本部・議員総局の総局長である衛藤晟一参議院議員の名で、全国都道府県支部連合会幹事長にあてて、2011年の6月議会にむけて5月25日に「平成23年夏の中学校教科書採択への取り組み(要請)」という通達を発信、教科書採択への介入を指示しました。その内容は、「・・・中学校教科書(歴史・公民)の大半は、教育基本法の理念・精神が十分反映されたものとは言えず、誠に遺憾」とし、例として「自衛隊については未だ憲法違反とする意見を強調」、「国旗・国家について粗略に記述」、「拉致問題についても許しがたい人権侵害や国家主権侵害と記さず・・・」、「尖閣諸島や竹島について本文で触れない」ことを挙げ、「適切な教科書採択にむけて、教育委員会の権限と責任で、教育基本法および学習指導要領改正の趣旨を反映した採択への取り組みを進めることは、教育基本法を制定したわが党の使命」とまで言って、地方議会で「非常識な教科書記述への議会質問を行う」ことと、「教育基本法・学習指導要領改正の趣旨に最もふさわしい教科書採択の環境を整える」ことを要請しています。

この要請を受けて、呉市議会の6人の日本会議(呉支部は2009年結成)の市議が、呉市教育行政を突き動かした結果、呉市教科書調査・研究委員会が立てた視点や調査方法に、最初から育鵬社有利となるものが入れられたと考えざるを得ません。

※ここでいう教育基本法とは、当時の安倍首相(日本会議のメンバー)が2006年に強行採決して改悪教育基本法で、「国を愛する態度の育成」「公の精神」を盛り込んだもの。本格的な改憲の地ならしとされるものです。

# そんななか「子どものための教科書を」と呉市民が立ち上がる！—教科書を考える呉の会結成まで—

9月1日に、呉市教委のホームページを見て「育鵬社の教科書が採択された!」「まさか!」とおどろきました。その1週間後には連絡を取り合いながら、お母さん、元教員、現役教員、弁護士さん、市議さん、労働組合員など有志が個人としての立場で集まりました。そして、情報公開請求をしながら今後の対策を立てていくことを確認しました。

その後5回の教科書問題懇談会をつみ重ね、11月20日に教科書ネット21の俵義文さんを招いて講演会を開いて、教科書問題の本質や杉並や横浜の活動の教訓などを学び合いました。そして、12月4日に第1回学習(教科書の読み比べ)を行い、12月17日に市民の会として「教科書を考える呉の会～未来への架け橋～」を結成しました。「こんな教科書で勉強したらどんな子どもに育つの!？」という不安や疑問で集まり、読み比べてい

くなかで「こんな教科書は子どもたちに渡したくない」というエネルギーが湧いてきます。会員は2月現在で60名です。年度内に100名まで上げたいと考えています。

## 4年後、「子どものための教科書」を取り戻すために

教科書だけでなく呉市の教育行政はさまざまな問題があります。「全国でも先進的な小中一貫教育」と言われていますが、その陰で小学校の統廃合が進められ、その跡地は公共の場ではなく分譲住宅やマンション用地として切り売りされました。反対に1000人を超えるようなマンモス小学校は分割されずし詰め状態のままです。呉市総合体育大会では軍隊式の行進が推奨され、校門に礼をする中学生をほめたたえる校長もいます。そんなことに疑問を持って、それを声にしていえる場がありませんでした。「教科書を考える呉の会」は、保護者が子どもと教育について自由に話せる場をつくり、28中学校区にそれぞれ10名以上の会員にまで上げていきたいと考えています。

### 会からお願い・・・

育鵬社の教科書でどんな子が育つか③

① 他の地域のみなさんも趣旨に賛同していただけたら、本日ぜひご入会ください。

会費：一口500円

② 入会していただいた方には会のニュースをお送りします。県内各地で話題にしてください。

③ くちこみで、呉市在住者や呉にお勤めの知人に会のことや教科書のことをお伝えください。

**以上よろしくお願いたします。**



### <今後の予定>

第3回学習会 「神話と伝承を読み比べてみよう」 2012年3月18日(日) 14:00~16:00

第4回学習会 「子どもの権利を読み比べてみよう」 2012年4月22日(日) 15:00~17:00

場所はいずれも西教寺(蔵本支坊一中央7丁目7-13)です。駐車場もあります。

連絡先:(村田090-1354-5974、三井090-6412-4658)

## Q&A コーナー「そもそも育鵬社など、「つくる会」系教科書とは・・・」

今から16年前の1996年(平成8年)に「従軍慰安婦問題」が全ての中学校歴史教科書に載せられたころ、「日本の過去の戦争を侵略戦争と記述しており、自虐的な歴史観である。これでは子どもたちに日本人としての誇りを持つことができない」という教科書攻撃が始められました。そして「新しい歴史教科書をつくる会」(以下「つくる会」)を結成し、扶桑社から教科書を出版し、2002年、2006年とつづけて教科書採択活動を展開していきました。

しかし、なかなか採択が拓がらないなか2006年には内部抗争で分裂し、藤岡信勝氏を会長とする「つくる会」と八木秀次氏を会長とする「教科書改善の会」に分かれ、それぞれ自由社とフジ・サンケイグループが後押しする育鵬社から教科書を出版し、2008年、2011年と教科書採択活動を行ってきたのです。

だから、自由社版も育鵬社版も扶桑社版をコピーしたり、改訂したりしたものです。